



## 春うらら 花咲くひととき



春の穏やかな曇り空の下、デイサービスセンター青葉台では近くの公園でお花見会を開催しました。薄曇りの空のもとに咲く桜は、どこか風情があり、ご利用者の皆様も「こういうのもまた良いね」と、ゆったりとした時間を楽しまれました。

デイサービス  
センター  
青葉台  
小規模多機能型  
居宅介護



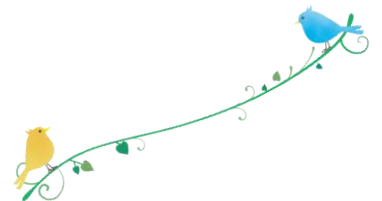
桜の木の下で「ハイチーズ！」



「春よ来い」「春の小川」など春の歌を皆で歌いました。



小さいお子さんが「こんにちは！」と元気にご挨拶。ご利用者様も手を振って応じていました。



公園には桜のほか、山吹、椿といった春を告げる花々が咲いていて、皆様の目を楽しませていました。

施設に戻ってからも、「桜がきれいだった」「また行きたい！」と興奮さめやらぬといった感じで、花見の余韻に浸られていらっしゃいました。

これからも、季節の移ろいを感じられる行事を通して、ご利用者の皆様に寄り添った時間を提供してまいります。



# 食を続ける ～誤嚥性肺炎から考える「口から食べる」ことの可能性～

グループホーム青葉台 施設長 山本 忠弘

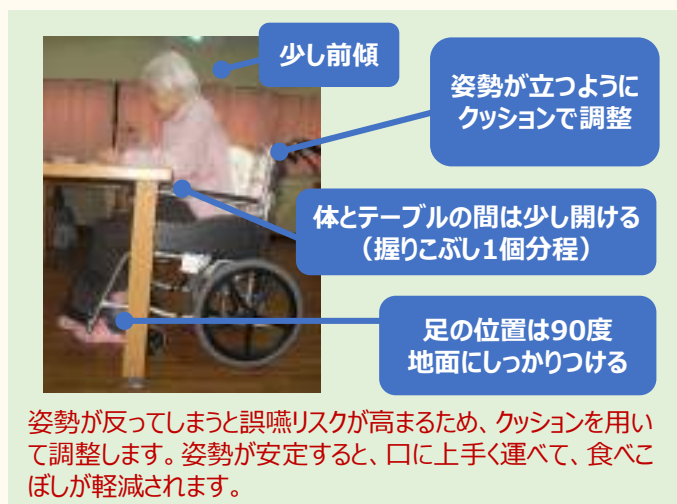
ご入居者のA様は、なすの煮びたしやヨーグルトなど決まった物しか召し上がりませんでした。これは、前頭側頭型認知症の「常同行動」によるもので、毎日同じ食べ物を食べる、同じ場所を歩くなどの特徴があります。

月日がたち、職員との信頼関係が築かれてくると、別メニューの食事でも召し上がっていただけるようになりましたが、発熱を境に全く食べられなくなってしまいました。老衰による嚥下困難かと思われましたが、診断は「誤嚥性肺炎」。治癒はしたものの、長引いた入院生活により、嚥下機能が回復せず、口からの食事は不能と診断されました。

本当に飲み込めないのか？「食べる」ことは人間の根源的な欲求です。私達は諦めずに、担当医とご家族様に相談し、お好きだったゼリータイプの総合栄養食と、トロミをつけたスポーツドリンクを試してみることにしました。小さなスプーンで介助すると飲み込むことができ、ご家族様とうなずき合い喜びました。A様は老衰で亡くなるまでの10カ月間、この食事で生き抜くことができました。

スポーツドリンクはトロミをつけてもあまり粘り気が出ませんので、嚥下障害がある方に比較的有効です。しかし、ドリンクタイプの栄養剤によっては、トロミをつけると粘り気が増し、この粘り気が口の中（舌の上やのど）に残ってしまうことにより、呼吸が浅くなり、呼吸苦から酸素濃度の低下の恐れがあるので、注意が必要です。代わりにゼラチンを使用すれば、粘り気がないゼリーに仕上がります。ただし、固さによってはゼリーをすくう時、スプーンにゼリーが張り付いて離れないのが難点でした。そんな時は、スプーンを水につけてから、ゼリーをすくとスッと離れます。これはある職員のアイデアです（グッドジョブ！）。

私達は、生涯「口から食べる」ことに拘ります。A様は食べられないと言われた後でも食べられるものを探しました。同じように、誤嚥を予防することも重要です。最も大切なのは、「食事姿勢」です。安全な嚥下姿勢は、写真のB様のように、やや前傾で軽くあごをひきます。姿勢保持が難しい方はクッション等で調整しますが、椅子とテーブルが近すぎると、窮屈になってしまうので、リスク（誤嚥）とベネフィット（食べ心地）のバランスを見て、その方に合う姿勢を微調整していくことも必要です。



前傾姿勢になりすぎて顔が下を向いてしまわれる方には、無理に顔をあげようとはせず、両腕を後ろから抱えて、バンザイのように腕を上げて差し上げると、胸郭が開いて呼吸が楽になり、首も起きやすくなります。

また、ベッド上の食事は腹圧が上がってしまい、胃内容物の嘔吐や逆流による誤嚥を引き起こします。ご本人の食べにくさもあるので、基本的には車椅子に移乗し、食事を摂っていただくようにしています。



写真掲載についてはご本人様又はご家族様の了承を得ています。

医療法人社団 三喜会 グループホーム・デイサービスセンター青葉台



〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台3-9

TEL. 045 (981) 6900 <グループホーム>

045 (982) 3200 <デイサービスセンター>

(GH)



(DS)

